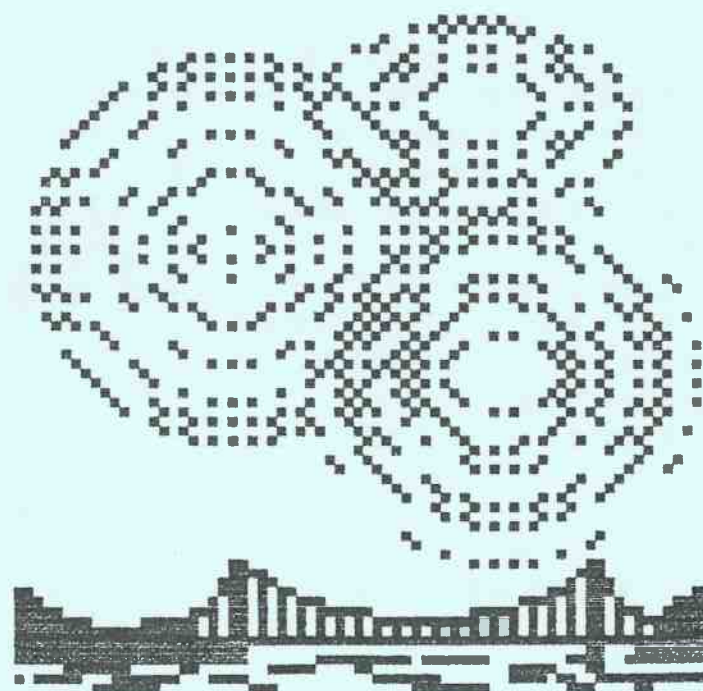


ふれあい 雪谷

平成12年
あさがお号



(小池 山下雅巳さんの作品)



母校の思い出 ②

私が雪谷中学校を卒業して早や40年以上にもなりました。昭和30年代は大変生徒の多い時代で、1学年がA組～F組迄あり、1組55名位で教室の中は後ろまで生徒で一杯でした。

—先生のこと—

私の3年間の担任であった数学の先生は写真部の先生でもあり、カメラを首から下げていらっしゃる事が多く、遠足・運動会・林間学校はもちろん、教室の中や放課後の様子等もよく写して下さいました。当時カメラを持っている家庭は少なかったので写真は良い思い出になっています。

またこの先生は男子生徒に厳しかったようで、殴った事もあるそうです。それは卒業して何年後に聞いた事ですが、その生徒は母子家庭でしたので、父親に殴られた気持ちで、嬉しかったと言っていました。殴られるには理由もあり、納得もしていたのでしょうね。

—林間学校のこと—

夏休みの林間学校も楽しみでした。毎年山中湖へ行きました。ボートに乗ったり、花火、登山もしました。また貸自転車で湖を一周した事もありました。

—教生のこと—

教育実習の女子大生は、若くてはつらつとしていました。授業も楽しかったですし、放課後も一緒に遊んで下さったり、クラブ活動にも参加して下さいたりと、年齢が近いせいか楽しかった思い出があります。

—校庭のこと—

広いひろい校庭の周りは家が少なく、今よりも、もっと広く感じました。伸びのびと運動が出来たと思います。

懐かしい事柄を一生懸命思い出しました。いろいろな思い出は私の財産の一つです。

(南雪谷 坪川 公子)



◆編集後記
好天気続きのゴールデンウィークも終わり、早くも暑い夏がやって来ます。
今回でシリーズ「私の健康法」も五回目を迎えました。
難病を克服された方や、お元気で長生きされている方々が毎日の食事や運動をととても大切に、実行されていることに感心させられます。
皆様もご参考にされてみてはいかがでしょう。
また、良い情報・ご意見等をお待ちしております。
(笹丸 小倉)

〔発行〕わがまち大田雪谷地区推進委員会
〔編集〕ふれあい雪谷編集委員会
連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷四一三二二
電話 三七二九一五二一七
〔発行日〕平成十二年七月一日

サークル紹介⑩

葉月フラウエンコール

みなさまこんにちは。女性合唱団の葉月フラウエンコールです。団員は二十数名で長い間歌いつづけております。月に五、六回集まってハーモニーを楽しんでおります。

歌うことは有酸素運動で、腹筋をつかい声を出すので、身体のためにとよいのです。実際身体が弱かった方も、歌うことで気分的にも明るくなり、元気がわいてきたとのこと。歌い終わると皆生き生きと顔色もよく、気分も声もすこく若く美しくなります。

午前中の練習なので終わった

あと食事やお茶で、別の楽しみを味わっております。毎年春分の日に、安田生命ホールで発表会をいたします。東京都合唱祭(十七回連続出場)、大田区合唱祭に参加して、多数の合唱団の方との交流を重ねております。

ぜひ皆様も大声で歌ってみてはいかがでしょう。うか。明るく楽しい世界が開けます。



(池の台 岩崎 俊子)

私の健康法⑤

今から三十三年前、我が家に喜びと苦しみと同時に訪れました。それは一人娘の誕生と、健康だった妻にリウマチの診断がくだされたことです。この難病を背負って、闘病生活が始まったのです。

その頃の私は「病気になるたら薬で治そう」という程度の認識で、食改善により「自分の免疫力をアップさせ、自然治癒力で治す」という意識がなかったのです。

当時スタミナには牛肉ステーキ、カルシウムといえば牛乳、疲れた時は甘い物、ビタミンCのため多量の果物、朝はご飯よりパン、主食より副食多く、生水は恐いからとほとんど飲まず。いま思えば間違いだら

けの食生活が病気を
つくり、苦しむ結果を自ら招いていたのです。



そんな時、玄米と大豆を発酵させた「玄米酵素」に出会い食べ始めたところ、妻の血沈など検査値が医者も驚く程に緩解し、体調も良くなり、又私のアレルギー体質、娘の低血圧等も目覚ましく改善されたのです。

日本人は長寿世界一、日本食は世界一の健康食、美容食です。「食育」をそれぞれの家庭で始めようではありませんか。

(小池 前田 清和)



福祉の町づくり “東雪ボランティア”

“この一步はささやかだけれど、大きな一步である”とルイ・アームストロング船長は月の上で言いました。とにかく始めの一步を踏み出すことの大切さを人々は胸に刻み込んだのです。“東雪ボランティア”もこの一步を踏み出してからはや一年がたちました。

この組織は東雪福祉厚生部と自治会からのボランティアの集まりで現在22名で活動しています。

2年半程前、私たちは「東雪自治会福祉厚生部として今後どんな活動をしたらいいか」ということを話し合いました。そして第1回東雪演芸会の開催（平成10年3月）を機に高齢者を対象に、次のようなアンケート調査を行いました。

- あなたは日常生活で何か困っていることがありますか。
- 困っていることがあるとしたら誰かにお手伝いをしてもらっていますか。
- なにか困っているとき自治会が手助けしてくれるとしたらあなたはどうしますか。

この結果を基に東雪ボランティアが発足しました。活動はボランティアの協力者を募ることから始まり11名の応募がありました。その後、高齢者世帯、ひとり暮らしの高齢者、障害者世帯を対象に「困っていることがあれば、お手伝いをします」と回覧板等でお知らせしました。手伝いの内容は“草むしり、小修理、繕い、掃除、買物、話し相手、通院の付き添い、植木の剪定、など”です。

大田区社会福祉協議会の方にアドバイスを受けながら会合を重ね、今ようやく活動が軌道に乗りつつあります。今後ともお手伝いの必要な方は気軽にご連絡ください。

少しでも住み良い町になるよう、“ささやかだけれど大きな一步になる”ようがんばっています。

また新しいボランティアも随時募集中です。どうぞご協力の程、よろしく願いいたします。

【連絡先】 福祉厚生部長 荒井 兵 TEL 3728-0824
(東雪 松尾 勝子)

自治会長さんが変わりました
雪谷石川台自治会
(新)永久保 勝美 (旧)豊田 進

この情報誌は古紙70%の用紙を使用しています。

55年目の再会を前に 一集団疎開一

終戦の前年、昭和19年8月、池雪小学校でも文部省の通達によって、学童の集団疎開が行われました。

その人数約630名は、親元をはなれて静岡、富山、岩手と東京の戦火を逃れるために、それぞれの地に赴きました。当初は、小学校4年生以上が対象となりましたが、戦火が激しくなると全生徒に拡大されました。

先生と寮母さんに引率されての行く先は、お寺であり、旅館であり青年学級の宿舍と、十数か所に分かれた文字通り寝食をともにする集団生活でした。

当時の情勢は、食糧は極端に欠乏して最悪の状況になり、集団生活は苦難の毎日であり、この中での勉強は、お寺の本堂や旅館の座敷で行われ貧弱そのものでした。

その時から終戦、そして世は平成となり半世紀以上の時が流れて、この時の学童たちも熟年の時代に入り再会することになりました。

現代の子供たちには想像も出来ないことが、昭和の一時期に行われたのです。

今年も終戦の日が近づき平和の有難さをかみしめたいものです。



(南雪谷 A. S生)

地域住民の心にふれる活動

私が小池駐在所に赴任して十数年となりました。

日常の諸活動を通じて地域住民の喜びや悲しみ、怒りなどの様々な場面に接し、時には悪戦苦闘しながらも、地域住民のために安全と平穏な町づくりに努力しているところです。

ところで、昔は物が無い質素な生活ではあったが、家族や近隣の人々が寄り添い、心を通い合わせ、お互いに助け合うところに地域社会の絆がありました。それが年々薄れてゆき、犯罪や事故の多発にもつながっていると指摘されています。

そこで、身近な駐在所員として思いやりの心に根ざした地域密着型活動をしております。秋祭り、防災訓練、年末餅つき、ミニスポーツ大会等に積極的に参加し温かいふれあいの場で、地域住民の心にいつそうふれたいと思います。地域の皆様が平穏に生活できるという最も基本的な願いを満たすため、これからも頑張っていく覚悟です。



”緊急の事件・事故に 110番”
”相談・要望等は #9110に”

田園調布警察署
小池駐在所 谷川 寛

毎月20日地域安全の日

相談・要望など 交番・駐在所へ
田園調布警察署

自治会リレー随筆

世代感の違いから今に思う 絆と世相！



洗足池にポンポン蒸気船が一周したり、勝海舟の墓の前の公園が「チンカラ園」という名の遊園地で豆汽車が走ってた頃は、上池台、東雪谷はのどかな住宅地であった。

第二次世界大戦が激しくなり、私たち小学生で縁故の無い者達は学童集団疎開をさせられ、親許を離れて共同生活を強いられた。

食料衣類に事欠く時代で、親兄弟のお下がり身を身にまとい、少ない食物を分け合って食べるという状況下でも規律を守り、苦しくも我慢をしてもそれは当たり前前として過ごしてきた。これに反して今の日本は飽食の時代で、あまりにも勿体無い気を抱かせる。

昭和二十年十月一日に疎開先の岩手県沢井村から帰京し、小池小学校の丸焼けの何も無い運動場で解散式をした。

こんな時代を経て育った私たち世代は、「数居は親の頭だから踏んではいけない」「曇の縁は踏むものではない」等々、また修身で「年寄りには席を譲るものだ」と教えられてきた者にとって、電車バスにシルバーシートがあるのが不思議に思う。

教師がサラリーマン化したのか、保護者が直ぐに問題化して教育委員会に抗議をするからか、先生も自分の首が危なくなるからか体罰を加えることは皆無のようである。

しかし現代両親が働きに出ていて家庭にいる時間が少なくなつて、子供に目が届かなくなることが多いとき、先生に全幅の信頼をもって指導をして頂いてもよいのではないかとと思われる。私の母校麻布中学校では、人格形成に一番大切な時期は十四、五から十七歳頃であるから、大学を作らないのだと聞かされたことを今頃になって成程と思う。

弱い人程悪いことは人のせいにする。権利意識のみ主張する昨今、もう一度それぞれ自分を振り返って「我、日に三省せり」をしてよいのではなかろうか。まずもって、絆は家庭教育にありと言いたい。

(池の台 平澤 久男)

俳句短歌

葡萄棚 抜け来る風のさはやかな
(希望 松川 五十五)

朝方の雨もやみたり 星今宵
(南雪谷 宮島 婦美)

ふり返り 見つゝ人ゆく 門火焚く
(南雪谷 宮島 婦美)

軽口にかかるくこたえて 夏料理
(東中 岩波 博康)

歯科医出て 等身大に 風重る
(東中 岩波 博康)

他端の 勝西郷を 刺む碑の
歴史を伝う 雄新の遠路
(小池 天田 美歌子)

